

八百石者新寄進都合貳千石、内別當五百石、社僧三百石、社家貳百石、全可寺納并社領、同前境内山林竹木爲守護不入、令寄附上者、永代不可有相違者也、仍可抽天下安全祈禱狀如件、

慶長十七年五月朔日

御朱印

〔信府統記二十四〕御裁許記○中略

元祿十丁巳年、麻績組同町市野川村永井村と更科郡八幡村郡村志川村、羽尾村四ヶ村と山論御裁許、

信州筑摩郡松本領麻績村市野川村永井村と、同國更科郡松代領八幡村郡村志川村、羽尾村

爭論之事、

麻績永井市郡川三ヶ村百姓訴候は、いぎれより湯光坊土橋三ツ嶺小坂九折道、せごが池、菖蒲池、屏風岩、中尾釣根冠著嶽境之由申之、八幡郡志川、羽尾四ヶ村百姓答候は、小高柄峯より樋ヶ峯、猿ヶ馬場峠三ツ峯、風越山峯一本松冠著嶽境之由申之、遂糺明處に、雙方申所不分明、依之、檢使三上半兵衛完倉與兵衛檢分之上、いぎれより湯光坊土橋三ツ峯、風越山峯、鷲岩一本松海道限之、冠著嶽迄那境相定候、墨引之外、東北に有之、畑八枚、境不慥に付、開置候と相見條、向後可荒之次に、札山内山、雖及異論、證文證跡無之、柴草多有之方は、内山と相見候、其上見通境用之中尾根より一本松迄、札山境相立候、且又羽尾村百姓申候は、永井村地内之山、爲請納山由申之、永井村百姓札山の由答之、令吟味處、松代領仙石須坂若宮徳間四ヶ村百姓新山札請取由、永井村へ證文出之條、羽尾村も山札致所持、永井村之山へ入候と相聞候、柴草茂り候分は、永井村内山に相極、口あき岩の尾根より、道心が峯迄、繪圖之面墨筋を引各加印判、雙方へ下置間、不可再犯者也、

元祿十年丁丑七月廿二日

荻 近江○下略

〔當宮緣事抄〕左辨官下 石清水八幡宮并宿院極樂寺

莊保